

■諏訪秀三郎 軍人留学生で渡仏、パリジェンヌの虜になり、日本人向け旅館を経営、有名人になるも、自殺に至った。
すわしゅうざぶろう
安政大地震・1855＝ 代々紀州徳川家に仕える諏訪家の新右衛門の三男に生まれる。

桜田門外変・1860＝ 5歳：

禁門の変・・・1864＝ 9歳：

明治維新・・・1868＝13歳：明治維新後、
初の日刊新聞1870＝15歳： 創設された陸軍兵学校幼年学舎へ入り、
きわめて優秀だったらしく、
学問のすすめ1872＝17歳： フランス派遣留学生に拔擢される。
明治6年政変 1873＝18歳： 留学期限を終えて帰国するが、

三つの内乱・1876＝21歳： 渡欧する井上馨のお供に選ばれて、再びパリに留学、勉学に励むうち、数年前に亡命先のイギリスから帰国し絶大な人気であった晩年の文豪ビクトル・ユーゴーが、熱狂的なファンに追われ、下宿先に匿ってくれと飛び込んできたことが縁で、以後、可愛がられるようになる。
この間、 娼婦のジャネと将来を固く誓い合っていたところに、本国から帰国の命令が出、止むなく日本行きの船に乗船、追って来た彼女とシンガポールで出会うや意思は定まり、彼女を連れて帰国して、
・・・1880＝25歳： *東京府に婚姻届を提出、国際結婚第1号となるが、彼女に入れ込んで仕事にならず、結局、ともに渡仏、軍は除籍となり、日本からの送金もなく、生活は困窮を極め、ついに妻は流行病で死去してしまう。
明治14年政変1881＝26歳： *寡婦だった下宿の女主人と再婚し、アパートを借りて、日本旅館を開業、
新体詩抄・・・1882＝27歳：
内閣発足・・・1885＝30歳： この年、ユーゴーは死去。

こつこつと資金を蓄え、部屋数150を超す{オテル・タルデュニー}を開業し、

帝国憲法発布1889＝34歳：

大津事件・・・1891＝36歳：

日清戦争始・1894＝39歳：

Bushidou・・・1899＝44歳： この年開かれたパリ万博の盛況を見て、翌年再び開かれるパリ万博への日本人客を見込んで、
ピアノ国産化・1900＝45歳： *{東京日日新聞}に、パリで日本旅館{オテル・タルデュニー}を営む者が新館をオープンの広告を出したという記事が出るに至るが、この年、万博が終るや、客の確保に苦労するようになり、

パリ在住の日本人の間では、ハイカラで礼儀正しいジェントルマンと絶賛される一方、フランス流の合理的な対応が嫌われたりするなど、一番の有名人になっていたが、

日露戦争終・1905＝50歳：

伊藤博文暗殺1909＝54歳：

明治天皇没・1912＝57歳：

本格政党内閣1918＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝66歳：

年上の妻が長患いをするようになって、治療費も嵩み、

金融恐慌・・・1927＝72歳：

世界恐慌・・・1929＝74歳： 世界恐慌で壊滅的な打撃を受け、
海軍軍縮条約1930＝75歳： この年のパリ在住の「日本人名録」に掲載された広告では、{諏訪旅館}となっていて、住所も変わっている。
満州事変・・・1931＝76歳：

国際連盟脱退1933＝78歳： *妻が死去して希望を失ったのか。ベルギーで自殺を図って、没した。突然のニュースに、前年まで世話になり帰国していた金子光晴は、そのニュースを聞いて、妻とともに掘割に投身して心中したと衝撃を綴っているが、パリの日本人会書記椎名其二が代理人となって、在仏日本大使に出した死亡届では、ベルギーのアントワープの河岸での短銃自殺であった。
なお、3歳上の次兄柳之助は、岡本家の養子となり、後、国粋主義者の大陸浪人として、竹橋事件に関与し、乙未事変を主導する。

熊田忠雄「そこに日本人がいた！」、